

わ
輪を和でつなぐ

広報

しまはち通信



Shima8 news



もらってくれて ありがとう



桜の花びらが散り、若葉が顔を出し始めたころ、私の娘は生まれました。出産の翌日病棟に行くと、「先生、おめでとう。男の子？女の子？」Aちゃんのお母さんは私の娘の出産をととても喜んでくれました。

Aちゃんは先天性ミオパチーで生まれてからほとんどを病院で過ごし、気管切開をして人工呼吸器をつけて日々過ごしていました。なかなか外に行くこともできず、お母さんは毎日病院に通っていました。しばらく娘の話をした後、少しの沈黙の後、「もしよかったらうちの子の洋服をあげたいんだけどもらってくれる？」とお母さんが言ってきました。「ありがとう」と私がお礼を言うと、そのお母さんは更にこうつけ加えました。「先生、家に帰って奥さんに聞いてからにした方がいいわよ。」私は、その言葉の意味が解りませんでした。家に帰り妻にその話をすると、

「あら、嬉しい！」

と妻も喜んでくれました。さっそく次の日に病院でAちゃんのお母さんにそのことを報告すると、お母さんは急にうつむいて手で顔を覆いました。そして、ささやくような声でいいました。

「もらってくれてありがとう」

その手の奥には、涙があふれていました。しばらくして、お母さんはぼつりぼつりと話しました。「友達に赤ちゃんが生まれた時にね、Aの服をあげようとしたの。そのときに、やんわりと断られちゃって。だから、それから怖くなっちゃってね、ず〜っと押入れの奥にしまっておいたの。でも、先生だったらもらってくれるかもしれないと思って、勇気をふりしぼって言ったの。」

一週間後の土曜日、誰もいない薄暗いロビーで待っていると、お母さんがそのベビー服を持ってきてくれました。両手いっぱいに段ボールを抱えていました。その段ボールを置くと、「待っててね。まだある

の。」と言って、また駆け出して行きました。三つの段ボール箱を抱えてきたお母さんはニコニコして、段ボールを開けました。段ボール箱一杯に入った色とりどりのベビー服は、お母さんがもう一度洗濯をしてアイロンをかけたのでしょ。みんな新品のようにきれいで、温かい輝きを放っていました。再び服として生を受けたことを喜んでいるかのように。

「お下がり」私たちは、子どもの頃、お兄ちゃんやお姉ちゃんが着てきた服を順番に着て、それを親戚や友達のお子さんにあげたりしたものです。服をあげるときには、そのお子さんの健やかな成長を祈り、そんな心も一緒に贈るものです。Aちゃんのお母さんは、誰よりも強く我が娘の成長を祈ったことでしょう。私の娘たちはそんな想いのいっぱいつまった服を着て成長しました。

この出来事は、私が「障害とは何か？」を考えるきっかけとなりました。私は、日々、「障害」を持った子を診ています。だから、服をもらうことも抵抗がありません。でも、私がこの仕事をしていなかったら…。私も同じように断っていたかもしれない。Aちゃんのお母さんも同じことでしょう。断った人、それは私なのかもしれません。

我々は、麻痺があったり、知的に遅れがあると、「障害」という言葉でその人をくくってしまいます。そしてあたかも別の世界にいるかのように壁を作ってしまう。でも、目が大きな人小さな人がいるように、鼻が高い人低い人がいるように、運動が得意な人苦手な人がいるように、その「障害」も「個性」です。「お下がり」のあの服は、今日もどこかで誰かを包み込んでいること



健やかな成長を願う心とともに。

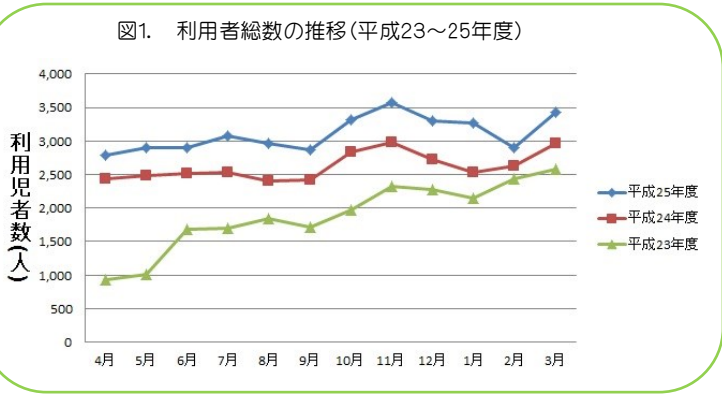
(所長 小沢 浩)



多くの方に利用して頂きました

当センターが開設して3年が経過しました。25年度は年間利用者の述べ人数は37,277人（前年度の1.2倍）、一日平均154人（療育97人、小児57人）の方に利用して頂きました。23年の開設年度と比較すると1.6倍に増えています（利用者総数の推移 図1）。

障害児者を対象とする療育診療の新規電話相談件数は1,217件（前年度1,090件）あり、療育診療の新患総数は772人（前年度は671人）でした。療育診療は神経小児科・児童精神科ともにニーズが高く、現在、初診は神経小児科が3ヵ月待ち、児童精神科は5ヶ月待ちの状況です。発達障害を主病名とする利用児者の方が新患全体の約6割を占めており、医療機関だけでは支援しきれない状況です。医療・教育・福祉などの関係機関との連携が大きな課題です。小児科診療（えみんぐ）も一日平均57人程利用して頂けるようになってきており、2診察～3診察体制で診療を行っています。



重症心身障害者通所事業では、現在18名の利用者が登録されており、昨年度行った第三者評価ではサービスの質を高く評価して頂きました。発達障害児支援事業も、相談事業・療育支援事業（小集団指導や保護者支援等）・施設支援や普及啓発事業（講習会等）を計画通りに実行することができました。

26年度も関係機関や地域住民の皆さまとの関係を大切に、多くの利用者さまに満足して頂けるサービスを提供していきたいと思っています。

（副所長 鮎澤 浩一）



JICA「母子保健福祉行政」研修受け入れ

今年も2月24日（月）、平成25年度母子保健福祉行政研修を実施しました。

ミャンマー（2名）、カンボジア（2名）、ベトナム（2名）、インド（1名）、ニカラグア（2名）、イエメン（1名）の6か国10名、日本人通訳2名の計12名の参加でした。職種は医師、各国保健局の責任者や副局長等でした。

昨年同様、八王子盲学校にて障害児教育を見学後、11時から17時まで当センターでの研修となりました。今年もAさんに障害を持ったお子さんとの15年をお話して頂きました。心温まるお話に「Great mother!」との声も聞かれました。その後は当センターの概要、リハビリスタッフによる各科での指導内容の説明と、院内見学をしました。

えみんぐ（小児診療）での乳児健診では母子手帳の機能や、乳児検診対象者が障害の有無にかかわらず受診できるということに驚かされていました。PT室・ドリームルームでは車椅子の給付制度や、自国に比べてご家族の自己負担金の少なさ、福祉機器の充実に「日本で生まれた子供は幸せね」との声も。通所見学の後は特に沢山の質問をお受けしました。

“何のために通うの？” “誰が申し込むの？” “お金は？” など、他にも医療、食事、入浴、送迎、ポ

ジショニングマットについて等、熱い意見交換が行われました。

見学後は鮎澤副所長による島田療育センターはちおうじの3年間の歩み、設立から地域との連携、今後の展望についてお話して頂きました。様々な国からの参加で沢山の意見を聞くことができました。日本が抱えている問題もありますが、世界中の子供達が必要な支援を同じように受けられるよう、私達日本人は何をすべきか・・・考えさせられた一日でした。

この研修は2/2～3/1まで「母子保健及び児童福祉を範囲として格差緩和の切り口から、自国の母子を取り巻く環境の改善に向けた施策に関し知見を得、自国への適用を検討する」という目標で行われました。当センターでの研修を終え、「輪」を「和」でつないでいく精神がさらに広がっていくことを期待します。

（福祉相談科 石井 智代）



通所 納め会

3月20日、年度の締め括りとして、ご家族をお招きし「納め会」を開きました。

午前中は1年間グループで活動してきた成果をご家族に披露しました。Aグループは一音入魂で1年を通して練習してきた「ぶんぶんぶん」の曲を中心にハンドベル演奏をしました。Bグループは妖精をイメージした手作り衣装でダンシング・クイーン音楽に合わせてステージ狭しと踊りました。両グループともに練習の成果が発揮でき、ほっとしました。



午後からは、ご家族と一緒にグループ対抗のゲームをし、最後に1年間の活動の様子をまとめたスライドショーを観て、あれもしたねこれもしたねと話に花が咲きました。



来年度も利用者の皆さんが楽しめる活動と一緒に考え、1年間活動して行きたいと思っています。

(通所 坂本 絵梨奈)

マジックで子どもたちに夢を



昨年の4月よりマジックを習い始めました。所長面接の時に「子供たちに喜んでもらえる企画としてマジックなんかはどうだろうか」と聞かれたことがきっかけでした。



最初は、職員の皆様に協力してもらいながら未熟な腕を磨いて、半年後にどうにか人の前で披露できるくらいになりました。まず、はじめに通所の利用者様に披露し、昨年12月と今年の2月には診療やリハビリで来院している子どもたちにも「マジック



ショー」を観てもらい、マジックの不思議さを感じてもらいました。マジックを習い始めてからあっという間の1年でしたが、演じるマジックの数も増えてきました。

放射線技師としての支援とともに、マジックを通して子どもたちに夢を与えていければと思っています。

(放射線技師 菊池 進)

職場紹介

発達障害児支援室 ～からふる～

って どんなところ?

第8回

発達障害児支援室(からふる)は、八王子市からの補助を受けて、発達障害を持つお子さんがご家庭を中心に、地域で楽しく自分らしく生活できるように、グループ活動や施設支援、講習会や家族支援を行っています。

グループ活動(未就園児・年少児・年長児グループなど)は、年齢や時期に合わせて目的や活動内容を設定して、保育士、心理士、作業療法士、言語聴覚士がチームを組んで行っています。

施設支援は、リハビリテーションスタッフや医師が地域の保育園・幼稚園・学校へ行き(先生方に当センターに来院していただく場合もあります)、行動面やコミュニケーション面・知的発達、学習面などについてお子さんの発達特性を説明したり、集団の中での声のかけ方、友達同士の関わり方、学習指導の方法や工夫など、集団における具体的な支援の方法を助言しています。

講習会等では、当センターのリハビリテーションスタッフや医師が講師となり、保護者や保育園・幼稚園の先生・通所施設職員・学校の先生方などを対象に、発達障害について理解を深めるための講習会を開催しています。また、6月・10月には就学を控えた保護者の方を対象に就学情報交換会も行っています。

家族支援としては、親御さん同士が育児や就園・就学に向けての悩みや相談、情報交換を行える機会を設けており、親の会のメンバーの方にも同じ悩みを共有する先輩として参加して頂いています。

どんなお子さんも「育ち」の力を持っています。「育ち」の力を引き出す手立てを一緒に考え、支援したいと思っています。

(リハビリテーション科 甲斐 智子)



しまはちの3年間を振り返って

— 4月から海外留学される相崎先生より —

忘れもしない3.11大震災があった翌4月に、島田療育センターはちおうじは開設されました。八王子小児病院の面影を残しつつ、新たなスタッフが集まり、希望をもって船出した日のことは、今でも鮮明に覚えています。あっという間の3年間でした。

しまはちは、様々な困難を抱えている子どもたちを理解し、尊重し、関わる家族や地域の方々のおかげで、穏やかに過ごせるようにすること、その子の「居場所」作りのための場と考えています。今後もスタッフ一同が協力し、家族や園・学校、市民向けの講習会、施設支援などを充実させ、地域の輪を更に広げていけるものと期待しています。

どんな子どもにも、必ずその子自身の発達、成長がある。どんな子どもにも、必ずその子自身のストーリーがある。それは目では見えないものかもしれない、ほんの小さなものかもしれない。ただそれは、見ようとしなければ決して見ることができない。寄り添っていくこと、物語を一緒に作り上げていき、それを伝えていくこと。それが「療育」である。

“Yes, We Can” 進み続けよう。

ありがとう、しまはち。



(医師 相崎 貢一)

ほ っ と ひと い き

— 春をごちそうさん —

先日、群馬県高崎駅から歩いて行ける‘さくらの湯’に行ってきました。

ここは高崎市でも、最も古くからお湯の湧き出ている源泉かけ流しの温泉です。桜の花びらは入っていませんが、柔らかないいお湯に心も体もほっこりしました。

お腹も空いたところで、市街地にある‘もっこす’と言う天ぷら屋さんへ。ふきのとう、タラの芽、菜の花、薄い衣をさくっと噛むと、中から春の香りが飛び出してきました。



「う～ん、幸せ！」

冬を耐え、地中から芽を出し成長するために必要な栄養分をたっぷり含んだ山菜や春野菜を頂き、パワーアップさせて頂きました。ちなみに苦味は胃腸の働きを活発にし、新陳代謝や解毒作用の働きも、促進するそうです。春野菜恐るべし！ですね。

次は娘と春を頂きます。

(事務局 遠藤 由起)

おしらせ

information

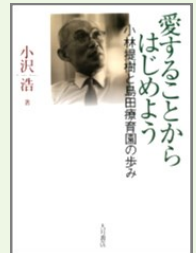
「愛することからはじめよう
小林提樹と島田療育園の歩み」

著者：小沢 浩

発行所：大月書店

価格：1600円（税別）

◆ 島田療育センターはちおうじ
内の売店でも販売しております。



島田療育センターはちおうじ 小児診療



こどもクリニック

♡ えみんぐ ♡

各種 予防接種を行っています。

予約制となりますので詳しくはお電話でお問い合わせください。

■ 診療内容

こどもがかかりやすい病気（発熱や嘔吐・下痢など）の診察・治療を行っています。

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
9:00~12:00	●	●	●	●	●		
13:45~14:45	予	予	予	乳予	予		
15:00~17:00	●	●	●	◎	●		

予… 予防接種 乳… 乳児健診

◎ 木曜午後のみ15:30~17:00の診療となります

* 土日他、祝日も休診となります



TEL. 042-634-9008

